HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	捜査面接における面接者のラポール構築方略と発問タイプが被面接者から得られる情報に与える効果［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	山本, 渉太
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第12521号
Issue Date	2017-03-23
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65382
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Shota_Yamamoto_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　博士（文学）　氏　名　山本　渉太

審査担当者
主査　教　授　仲　真紀子
副査　特任准教授　河原　純一郎
副査　准　教　授　大沼　進

学位論文題名

捜査面接における面接者のラポール構築方略と発問タイプが被面接者から得られる情報に与える効果

被疑者，被害者，目撃者などから得られる供述は，事件や事故の解決や予防・防止において重要な役割を果たす。近年，被疑者取調べの録音録画が法制度化され，子どもの被害者への事情聴取では警察と他機関との連携が推奨されるようになった。また，警察庁は心理学的知見，特に面接者と被面接者の「ラポール」（良好な人間関係）を構築する方略や，情報収集に適した発問タイプの研究成果を踏まえた捜査面接の教本を作成した。このように，近年，捜査面接法のあり方には大きな変化が見られる。

従来，ラポール構築方略や発問タイプの研究は，実験や調査，現実の捜査面接の分析などにより行われてきた。ただし，これらの研究の多くは海外で行われており，日本の法制度や文化的背景を踏まえた実証的な検討は限られていた。本論文では，捜査面接を取り巻く日本の現状や先行研究を考慮しつつ，捜査面接において特に重要だと考えられているラポール構築方略，ならびに発問タイプについて検討した。方法としては，文献研究，現場の捜査官や大学生を対象とした質問紙調査法，実験法を用いた。

以下，本論文の研究成果と審査結果について述べる。

１）本論文の研究成果

本研究の主たる成果は以下の 4 点にまとめることができる。(1) 近年，心理学の領域のみならず社会的にも大きな注目を集めている捜査面接に関し，丹念な文献研究をおこない，知見を整理し，重要な研究課題を特定したこと，(2) 捜査面接におけるラポール構築方略について，現場の捜査員を対象とした調査を行い，捜査員が使用すべきと考える方略を特定し，また，重視する度合いを明らかにしたこと，(3) 捜査員を対象に，発問に関し面接の時間経過を考慮にいれた検討をチャットを用いて行い，時間軸における発問の有効性を明らかにするとともに，チャットという新たな情報収集の方法も切り開いたこと，(4) 以上の成果をもとに，対面式の面接における発問順序とラポール構築について検討し，時間軸を考慮した発問の特性や有効性，ラポール構築方略の効果を明らかにしたこと，である。これらの成果は面接研究における新しい地平を広げ，捜査面接の理解や方法の向上に寄与するものである。

２）学位授与に関する委員会の所見

以上のことを踏まえ，本審査委員会では全員が一致して，博士（文学）の学位を授与するにふさわしいとの結論に達した。